

# ジェンダー研究センター彙報<平成22年度>

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

職名は発令時による

## 平成22（2010）年度研究プロジェクト概要

	年 月 日	テーマ	報告者、評者等
IGS セミナー	ジェンダー研究センター提供科目「国際ジェンダー論」連続講座		
	平成22年4月14日	第1回「ユネスコのジェンダー主流化政策とジェンダー平等のための活動」	【講師】菅野琴（元ユネスコ本部職員／IGS客員研究員）
	平成22年4月21日	第2回「教育におけるジェンダー平等：エンパワーメントの基礎教育」	【講師】菅野琴（元ユネスコ本部職員／IGS客員研究員）
	平成22年4月28日	第3回「教育におけるジェンダー平等達成への課題と挑戦」	【講師】菅野琴（元ユネスコ本部職員／IGS客員研究員）
	平成22年5月12日	第4回 公開シンポジウム「女性と国際協力：国際組織のジェンダー主流化の未来を考える」 【主催】IGS	【報告】妹尾靖子（東京国際連合広報センター所長代行）、青島あすか（Tokyo English Life Line 臨床心理士／児童保護サービス・コーディネーター）、池崎翔子（大阪大学大学院国際公共政策研究科比較公共政策専攻博士前期課程） 【コーディネーター】菅野琴（元ユネスコ本部職員／IGS客員研究員） 【司会】館かおる（IGSセンター教授）
公開シンポジウム	平成23年1月8日	「ケア・エコノミーの現在」 【主催】IGS	【基調講演】ジュリー・ネルソン（Julie A. Nelson）（マサチューセッツ大学ボストン校経済学部教授） 【コメンテーター】伊田久美子（大阪府立大学）、足立真理子（IGSセンター長） 【挨拶】戒能民江（IGS副学長）、山本由美子（国連開発計画アジア太平洋地域事務所プログラムスペシャリスト） 【司会】申琪榮（IGSセンター教授）
特別講義	平成23年1月13日	「国連開発計画とジェンダー主流化」 （Introduction: United Nations Development Programme (UNDP) and Gender Mainstreaming） 【主催】IGS	【講師】山本由美子（UNDPアジア太平洋地域事務所プログラムスペシャリスト）
	平成23年1月31日	「ジェンダー統計について：国内外の動向とジェンダー統計指標」 【主催】IGS	【講師】杉橋やよい（金沢大学）
講演会	平成22年8月27日	セミナー「台湾における科学技術とジェンダー」 【主催】IGS	【講師】Li-Ling Tsai（国立高雄教育大学ジェンダー教育研究所准教授） 【コメンテーター】小川真理子（三重大学教授、IGS客員教授） 【司会】館かおる（IGSセンター教授）
	平成22年11月13日	エヴァ・キテイ教授 講演会 「ケアの倫理からグローバルな正義論へ」 【共催】ジェンダー法学会、IGS、東北大学GCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」拠点	【講師】エヴァ・F. キテイ（Eva F. Kittay）（ニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校哲学科教授） 【コメンテーター】江原由美子（首都大学東京） 【通訳】岡野八代（同志社大学） 【司会】牟田和恵（大阪大学）

研究会	平成22年7月24日	「科学史とジェンダー」関連文献 読書会・合評会 【主催】 IGS	【討論者】 小川真里子（IGS客員教授／三重大学 教授）
	平成22年7月31日	「映像表現とジェンダー」研究会 【主催】 IGS	【報告】 吉岡愛子（上智大学・青山学院大学非常 勤講師） 【司会】 小林富久子（IGS研究協力員・早稲田大 学教授）
	平成22年12月15日	IGS研究交流会 「フィリピン・ネグロス島における フェアトレードとジェンダー」 【主催】 IGS	【講師】 堀芳枝（恵泉女学園大学人間社会学部准 教授）
	平成23年1月28日	IGS研究会 「政治思想とフェミニズム理論の乖離 と接近——「ケアの論理」を中心に」 【主催】 IGS	【報告】 岡野八代（同志社大学教授）
学会	平成22年4月17日	日本フェミニスト経済学会2010年度 大会 「ケア労働の諸相—ケアの危機の第2 局面に際して」 【主催】 日本フェミニスト経済学会 【協賛】 IGS 【後援】 大阪府立大学女性学研究セン ター	【座長】 松川誠一（東京学芸大学） 【報告者】 笹谷晴美（北海道教育大学）、松川誠 一（東京学芸大学）、大槻奈巳（聖心女子大学）、 藤原千沙（岩手大学） 【討論者】 居城舜子（前常盤学園大学）、田中か ず子（国際基督教大学） 【挨拶】 竹中恵美子（大阪市立大学名誉教授・前 大阪府ドーンセンター館長）

## 1. 人事関係

## 1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長・人間文化創成科学研究科教授 足立真理子 (平成19年4月1日～)

ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授 舘 かおる (平成8年5月11日～)

ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科准教授 申 琪榮 (平成20年4月1日～)

ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授 石井クンツ昌子 (平成20年4月1日～)

ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授 石塚 道子 (平成20年4月1日～)

ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授 棚橋 訓 (平成20年4月1日～)

人間文化創成科学研究科教授 米田 俊彦 (平成16年4月1日～)

人間文化創成科学研究科教授 真島 秀行 (平成16年4月1日～)

人間文化創成科学研究科教授 宮尾 正樹 (平成19年4月1日～)

## 2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長 (併) 足立真理子 (平成19年4月1日～)

センター教員 舘 かおる (平成12年4月1日～)

申 琪榮 (平成20年4月1日～)

客員教授 (国内) 柘植あづみ (明治学院大学社会学部教授) (平成20年4月1日～)

小川眞里子 (三重大学人文学部教授) (同上)

伊藤 るり (一橋大学大学院教授) (同上)

客員研究員 市井 礼奈 (ロイヤル・メルボルン工科大学専任講師) (平成20年4月1日～平成23年3月)

小山 直子 (放送大学・宇都宮大学非常勤講師) (平成20年4月1日～平成23年3月)

菅野 琴

(元ユネスコ本部職員・元駐ネパールユネスコ代表・カトマンズ事務局・大阪大学大学院客員教授) (平成20年4月1日～)

学内研究員

戒能 民江

(副学長・教授) (平成21年4月1日～平成23年3月31日)

研究協力員

磯山久美子

(法政大学ほか非常勤講師) (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

大海 篤子

(東京都市大学非常勤講師) (同上)

小門 穂

(大阪教育大学非常勤講師) (同上)

菅野 撰子

(立教大学ほか非常勤講師) (同上)

小林富久子

(早稲田大学教育学部教授・ジェンダー研究所所長) (同上)

斉藤 正美

(富山大学非常勤講師) (同上)

酒井 順子

(フェリス女学院大学非常勤講師) (同上)

佐藤 (佐久間) りか

(特定非営利活動法人 健康と病の語りダイベックス・ジャパン) (同上)

小門 穂

(大阪教育大学 非常勤講師) (同上)

山崎美和恵

(埼玉大学名誉教授) (同上)

高橋さきの

(お茶の水女子大学・東京農工大学非常勤講師) (同上)

根村 直美

(日本大学経済学部教授) (同上)

マーラ・パテッシオ

(英国マンチェスター大学講師) (同上)

徳永 理彩

(都留文化大学非常勤講師) (同上)

堀 芳枝

(恵泉女学園大学准教授) (同上)

研究機関研究員	徐 阿貴 (平成22年4月1日～)
研究支援推進員	鍋野 友哉 (平成21年4月1日～ 平成22年11月30日)
	板井 広明 (平成22年12月1日～)
事務局員	花岡ナホミ (平成18年4月1日～)
アソシエイトフェロー	石川 涼子 (平成22年5月1日～)
アカデミック・アシスタント	吉原 公美 (平成22年5月1日～)
アカデミック・アシスタント	平野 恵子 (平成23年3月1日～ 平成23年7月31日)

## 2. 会議関係

### <運営委員会の開催>

平成22年5月19日／11月5日／12月1日／

平成23年1月31日／3月11日

## 3. 研究調査活動

### 1) センター共同研究プロジェクト

#### 「教育的貧困と女性：エンパワーメントの生涯教育」

##### 【研究担当】

菅野 琴 (IGS客員研究員、大阪大学大学院客員教授、元  
ユネスコ本部職員・駐ネパール カトマンズ事務所長)

舘 かおる (IGSセンター教授)

##### 【研究内容】

ユネスコは貧困と無知、パワーlessnessの負の連鎖を止めるため、教育におけるジェンダー平等の達成を公約している。本研究プロジェクトでは、「女子・女性教育」から「教育におけるジェンダー平等」へのパラダイム・シフトと並行させながら、すべての人々の基本的学習ニーズを満たす人間開発のための教育、教育的貧困解消とグローバル化した世界のニーズに即した生涯学習、識字能力開発、学校外教育の要素をもつ拡大された基礎教育の立場から、エンパワーメントの教育を考察した。なお、これらの研究成果の一部は、2011年4、5月に開講されるお茶の水女子大学ジェンダー研究センター企画提供の特別講義「国際社会ジェンダー論」に、その成果の報告が予定されている。

#### 「フェミニスト経済学の理論、方法、射程」

<科学研究費基盤研究B>

##### 【研究担当】

足立真理子 (IGSセンター長・教授)

本山 央子 (アジア女性資料センター運営委員)

滝 美香 (科研費研究員)

##### 【研究内容】

本研究の要旨は、90年代初めに国際的に成立した、フェミニスト経済学についての包括的な研究を行い、経済学の新たな一分野としてのフェミニスト経済学の特徴を明らかにするとともに、そこから、従来の経済学においては、しばしば問題の所在そのものが不可視にされ、それゆえに経済問題として扱われてこなかった一連の問題群への接近と現実的対応可能性を見出すことにある。フェミニスト経済学は、フェミニズムの社会的要請を背景として誕生し、ジェンダーに関わる問題群を経済学の学問的領域において検証することを目的とする、経済学の新分野の一つである。フェミニスト経済学の国際的研究活動中心は、1993年に設立された国際フェミニスト経済学会 (International Association For Feminist Economics: IAFFE) であり、現在、ジェンダーと経済に関わる最も包括的な研究をおこなうとともに、国連をはじめとする国際機関および各国政府にたいして研究成果の提示を行っている。本年度は科研費研究最終年度にあたり、UNDPによるマクロ経済のジェンダー分析に関する資料収集および国際会議の開催、2008年グローバル金融危機以降のアジア、特に中国と中国周辺諸地域のNIDLの動向に着目してジェンダー分析をすすめ、年度末に研究成果報告書を刊行した。

#### 「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー配置」

##### 【研究担当】

伊藤 るり (IGS客員教授・一橋大学教授)

足立真理子 (IGSセンター長・教授)

小ヶ谷千穂 (横浜国立大学准教授)

定松 文 (恵泉女学園大学教授)

稲葉奈々子 (茨城大学准教授)

澤田 佳世 (沖縄国際大学准教授)

大橋 史恵 (日本学術振興会特別研究員)

呉 泰成 (一橋大学大学院後期博士課程)

越智 方美 (独立行政法人・国立女性教育会館)

平野 恵子 (本学大学院博士後期課程)

このほか「国際移動とジェンダー研究会」メンバー

**【研究内容】**

2005～2008年度にかけて進めた科研費による共同研究「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置」プロジェクトの研究成果を発展させた論文集の共同編集者として伊藤、足立、定松、小ヶ谷の4名があたることとなり、編集を継続中。なお、研究会では金融危機以降の状況を捉えるため、佐藤誠編『越境するケア労働 日本・アジア・アフリカ』（日経評論社 2010/12）、国際ジェンダー学会特集号 2010、『国を超えて移住する看護師たち』（Kingma, Mireille, 2006）等を批判的に検討し、成果本の編集作業として2005年から2008年と現在の状況について「入れ子型ヒエラルキー（Nested hierarchy）」、「グローバルサーキット（Global circuits）」の概念を軸に考察した。

**「ウェブ世界におけるジェンダーの位相」**

<科学研究費基盤研究B>

**【研究担当】**

館 かつおる（IGSセンター教授）

小山 直子（IGS客員研究員、放送大学・宇都宮大学非常勤講師）

**【研究内容】**

本研究は、2007-2009年度の科学研究費補助金（B）「社会科学の新しい研究方法論としての統合型ウェブマイニング環境の開発研究」（研究代表者 増永良文）の一部を分担して推進してきた。2009年度にSERPWatcherと称する検索エンジン結果ページ（SERP）の監視ツールを開発して、社会の動きをキャッチする可能性を拓いた。それは、男女共同参画基本計画の第2次改定（2005年12月）の際に、検索順位の変動が、実世界の権力により作為的に操作されたものであることを明確に示した論文（館かつおる・小山直子「ウェブ世界にみるジェンダー」館かつおる編『テクノ・バイオポリティクス』2008）を公表後の次の課題に応えるものであった。そして、SERPWatcherを用いて分析した、ジェンダーに関わるWebページでの検索順位は、第2次改定時の政治的で作為的な動きは示すことはなかった検索結果を示した。その成果の一端は、中部文子、渡辺知恵美、小山直子、館かつおる、増永良文「SERPAnalyzer：社会調査支援の為のSERPアーカイブからの特徴的ランク変動抽出システム」（『情報処理学会論文誌：データベース(TOD)』2011に掲載決定）として公開される。

**「医療機器の開発・応用とジェンダー」****【研究担当】**

柘植あづみ（本学客員教授・明治学院大学教授）

小門 穂（IGS研究協力員、大阪教育大学非常勤講師）

三村 恭子（本学博士後期課程院生）

**【研究内容】**

メンバーはジェンダー研究センターの研究会に参加すると共に、各自、学術論文発表、著書出版を行ってきた。また、科学研究費補助金の助成を得て（研究代表者 柘植あづみ）、「遺伝子、卵子、胎児」に焦点をあてて、医療技術とジェンダーについて調査研究を続けている。

**「アジアの女性科学者及び科学・医療・技術教育とジェンダー」****【研究担当】**

小川真理子（IGS客員教授・三重大学教授）

館 かつおる（IGSセンター教授）

**【研究内容】**

今年度は、研究担当代表者の小川真理子が翻訳に携わった、2010年5月末刊のアントワネット・ブラウン・ブラックウェル著『自然界における両性一雌雄の進化と男女の教育論』（小川真理子・飯島重衣共訳 法政大学出版社）と川島慶子著『マリーキュリーの挑戦—科学・ジェンダー・戦争』トランスビュー（2010刊）の「科学史とジェンダー」関連文献の研究会を開催した。また、台湾のLi-Ling Tsui（国立高雄教育大学ジェンダー教育研究所准教授）を講師としたセミナー「アジアにおける科学技術とジェンダー」を実施した。

**2) 個人研究プロジェクト****「DVの視点による家族法理論の再検討」****【研究担当】**

戒能 民江（本学副学長・IGS学内研究員）

**【内容】**

ハーグ条約（国際的な子の奪取の民事面に関する条約）は、子の連れ去りが国境を越えた場合に、子の元居住地国は、子を連れ去られた片方の親の請求に基づき、直ちに子の返還を命ずる仕組みを定めたものである。1980年に国連で採択されたが、日本政府は批准していない。近年、欧米諸国からの外交上の圧力が強まるなか、日本政府は批准の方向で動き出している。一方の親による子の連れ去りは子の最善の利益に反するとされるが、DVや児童虐待がある場合は、逆に、子の利益を著しく損なうことが危惧される。国際結婚をした

女性が欧米諸国から子を連れて日本に帰国するケースのほとんどは夫のDVから逃れてきた事例である。ハーグ条約はDVなどの例外事由を規定しているが、実際の運用では考慮されない場合が多い。離婚後の共同親権制度の導入やDV被害者が子を連れて逃げることができなくなることなど、ハーグ条約批准の国内法への影響は大きい。本研究ではハーグ条約の運用をめぐる米国の判例や先行研究の検討を行い、その成果を日弁連主催のシンポジウムでの報告等で発表した。

### 「ジェンダー視点に立った予算分析の実践——業績評価からのアプローチ——」

<科学研究費補助金若手B研究>

#### 【研究担当】

市井 礼奈（IGS客員研究員、ロイヤル・メルボルン工科大学専任講師）

#### 【研究内容】

本年度は日本と韓国を事例として、ジェンダー予算のアプローチと実施方法に関する比較研究を総括した。

日本におけるジェンダー予算の新たな動きとしては、内閣府男女共同参画局による諸外国のジェンダー予算の事例研究の実施と第3次男女共同参画計画の策定が挙げられる。第3次計画の策定過程では、女性団体とNGOによる積極的な活動の結果、男女共同参画計画の中では初めて「ジェンダー予算の在り方の調査・研究を行う」ことが明記された。これは政府によるジェンダー予算の実施に向けた足がかりとなると期待される。

一方、韓国では、ジェンダー予算声明が策定され、国会に提出された。これはジェンダー予算の実施が本格化したことを意味する。しかし、この予算声明は既存の予算声明の枠組にとどまっている。例えば予算の公正性を測る指標の作成やジェンダー平等政策の政策目標がジェンダー平等を真に反映しているかどうかなどの分析は行われていない。したがって予算がジェンダーに及ぼす影響が十分に分析されているとは言い難い。

日本と韓国では、行政組織、制度的枠組、予算制度は大きく異なる。ジェンダー予算の法的枠組が整備されている韓国ではジェンダー予算が実施されているが、その実施方法には様々な課題が残されている。一方日本には韓国のような法的枠組整備されていない。政府やNGOが、ジェンダー予算関連の様々な試みを行っているものの、それは断続的、断片的の試みに過ぎない。今後日本の状況に見合ったジェンダー予算分析のあり方と実施方法について、研究者のみならず、政

府、NGO、国会議員が連携して検討していく必要があると考えられる。

### 「工学教育とジェンダー」

#### 【研究担当】

高橋さきの（IGS研究協力員、東京農工大学・本学非常勤講師）

#### 【内容】

2007～08年度は、日本の近代産業黎明期の繊維産業分野の立ち上がり、工場法成立の意義と熟練労働からの女性の排除、工業化を背景とした家族観の変化などを扱うための題材について主に検討した。2009年度は、産業構造のシフトと性差観の関係を総合的に扱うための題材、特に、重工業的な労働形態が成立した戦間期から戦後の時期に形成された性差観について可視化が可能な題材について検討する一方、現在基盤の固まりつつあるウェブ社会におけるジェンダー秩序について内部観測的な検討が可能な題材についても検討を行った。2010年度は、2007～2009年度の成果を、科学技術と身体／からだを視野に入れたテクノバイオポリティクスという軸でまとめる作業を行った。

研究成果の一部は、下記学会等で発表し、East Asian Science, Technology and Society: an International Journalに、「Technobiopolitical examination of inter-war period: Start of metal and machine industry and views of gender/sexuality」というタイトルで投稿を行い、また原書房から2011年中に刊行予定の『通史 日本の科学技術1995-2010』に、「「性差」の世紀末転換期」というタイトルで分担執筆予定となっている。

学会発表については以下の通りである。35th 4S (Society for Social Studies of Science) Conference (4S2010) (第35回国際科学技術社会論会議) (科学技術社会論学会共催) 「Direct relationship between technology and gender-sexuality view: analyzing transitional phases of industrial structure (技術とジェンダー・セクシュアリティ観の直接的な関係—産業構造の過渡期を分析する)」、新通史フォーラム研究会 (科学研究費補助金基盤研究B) 「持続可能社会へ向けた日本の科学技術の転換の社会史的研究 (1995～2005)」 (研究代表者：吉岡齊九州大学教授)、東京農工大学附属科学博物館 (旧繊維博物館) 繊維技術研究会 「労働基本法のふるさと——バターンソンを訪ねて——」。

### 「スペインにおける女性の移民とジェンダー」

#### 【研究担当】

磯山久美子（IGS研究協力員、法政大学非常勤講師）

**【研究内容】**

エクアドルやモロッコをはじめとして」、スペインに増加し続ける移民人口のなかで、女性はスペイン社会にどのような役割を果たしているのか、また移民の女性にどのようなジェンダーの問題があるのかを考察しようとした。

移民の増加自体は現在も進行している現象であるため、今後も継続して考察していくことが求められるが、成果の一部として、川成洋・坂東省次編『スペイン文化事典』、丸善書店、2011年に、「スペインの女性」の項 (pp. 596-597) に執筆した。

**「女性と選挙」****【研究担当】**

大海 篤子 (IGS研究協力員、東京都立大学非常勤講師)

**【研究内容】**

1. 東京都内23区区議会議員調査 (2010年5月より)。本調査では、比較的女性が多い、東京都23区の区議会議員を対象に、初当選における選挙資源に注目して調査を行い、選挙資源における男女格差を明らかにする。東京都内23区議員913人に送付回収率25%。集計等を終え、2011年7月カナダのオタワで開催される世界女性会議 (Women's World) で発表を予定している (調査は、田中洋美=DIJ研究員、島直子=早稲田大学非常勤との共同調査)。
2. 2010年9月2日から開催されるアメリカ政治学会において、女性国会議員の選挙分析を発表した。Women's Advancement in the House of Councillors Election 2010 and Ozawa's Strategies。すでに引用の申し込みがあるなど、タイムリーな発表であった。
3. 2000年にスタートした日米女性政治学研究者交流シンポジウム (JAWS) に成果として、アメリカ政治学会へ若手研究者の参加増が可能になった。
4. 「女性と選挙」に関する女性研究者が集まり、新たな研究を展開している。上智大学三浦まりを中心に目黒より子、橋本ヒロ子、国広陽子、進藤久美子、竹前栄子らとの共同研究プロジェクトに参加している。
5. 『ジェンダーで学ぶ政治・社会学入門—男女平等の未来のために』を世織書房より出版。

**「英国の日本人コミュニティの歴史」****【研究担当】**

酒井 順子 (IGS研究協力員、フェリス女学院大学ほか非常

**勤講師)****【研究内容】**

本年度は、1991年よりインタビューを続けてきた在英日本人のコミュニティ (1950年代以降) の研究についての成果をまとめることを目指していた。これまでの在英日本人へのインタビュー (約130) と日系コミュニティ新聞を一次資料として、日本語論文として、特に「主観的な」聞き取り研究の方法論的議論を踏まえた論文としての完成を本年度は目指してきた。できれば、今年度中に成果として活字にしたかったが、不十分だったので現在書き直しの最中である。現在ある資料と文献とに限定して、2011年のうちには活字として出して区切りをつけたい。今年度の成果は以下のとおりである。

第11回全国女性史研究交流のつどいin 東京「地域女性史」オーラルヒストリー分科会で報告、同報告集『新たな女性史の未来をどう切り拓くか』p.29-31に掲載。

**「地域における男女共同参画政策：フィールド調査」****【研究担当】**

斉藤 正美 (IGS研究協力員、富山大学非常勤講師)

**【研究内容】**

日本のフェミニズムについては1990年代以降、学問および政策の制度化が進められるに伴い、さまざまな方面からの批判が強まっている。とりわけ、2000年以降はインターネットをはじめとするメディア上での保守派からの批判の可視化が顕著になっている。

2009年度は、過去の男女共同参画政策を遡及的に検討する中で、特に批判対象となった「ジェンダー」「ジェンダーフリー」などフェミニズムが使ってきたカタカナ語に焦点をあてて政策上の展開と受容過程を検討してきた。2010年度は、フェミニズム運動と保守運動の双方が男女共同参画政策に対して、どのようなストラテジーやアプローチで臨んできたかについて、過去に注目をあつめた地域の状況を具体的に検討した。いくつかの地域に即してフィールド調査を含めて地域状況と施策の効果や課題について考察を行った。

**「明治後期の女性の文化活動に関する研究」****【研究担当】**

マール・パテッショ (英国マンチェスター大学講師)

**【研究内容】**

*Women and Public Life in Early Meiji Japan: The Development of the Feminsit Movement* (単著)、および *The Female as Subject: Reading and Writing in Early Modern*

Japan (共著) を、ともにミシガン大学日本研究センターより出版した。また、*Japanese women at the fin the siècle: A cultural History of Talented Women in late Meiji Japan* というタイトルの論文集を執筆した(現在ハワイ大学出版局で審査中)。明治後期の日本女性に関しては、日本語、英語の両方において目立った先行研究があまりない。この本によって、大正期の女性、とりわけ青靴の価値や斬新さへの再考が促されることが期待される。明治後期の女性に関し、高等教育、労働、愛と結婚・離婚、長谷川喜多子と長谷川時雨、戦争などのテーマを扱う。

#### 「フィリピン・ネグロス島における農村社会の変容とジェンダー」

##### 【研究担当】

堀 芳枝 (IGS研究協力員、恵泉女学園大学准教授)

##### 【研究内容】

今年度は、これまで調査を実施してきたフィリピンの農地改革とネグロス島のフェアトレードに、ジェンダーの視点を盛り込むことを主な課題とした。そのために、フェアトレードについての先行研究をおこない、これまでの研究は世帯の所得向上については指摘されているが、フェアトレードにおける女性の位置づけとジェンダーの問題については、あまり言及されていないことが判明した。そこで、2010年10月にネグロス島での調査を実施し、フェアトレードの活動における女性の位置づけと世帯の資産形成におけるパワーバランスなどについて調べた。さらに、フィリピンの農村の女性と国際労働力移動との接点を見つけるため、資本論、近代化論と従属論、新国際分業論といった理論研究もおこなった。また、2010年9月にニューヨークにおいて、フィリピンの女性移民の予備的調査を実施した。2011年以降はこれらの調査を継続するほか、学会報告と論文執筆をおこなう予定である。

#### 「フェミニスト経済学と社会運動」

##### 【研究担当】

徳永 理彩 (IGS研究協力員、都留文化大学非常勤講師)

##### 【研究内容】

今年度の成果は第一に、フェミニスト経済学の文献収集ならびに購読を、足立眞理子教授の科研プロジェクトと連動させながら行った点である。とりわけフェミニスト経済学の創設メンバーの一人であるJulie A. Nelson教授の2011年1月の来日講演に併せて集中的に文献購読を行った。

第二の成果として、研究経過の報告を行った。オーストラリ

アのUniversity of Wollongongにて開催された“From Empire to Commonwealth: Communist Theory and Contemporary Praxis” (『『帝国』から『コモンウェルスへ』 - コミュニストの理論と現在の実践』)に参加し、徳永理彩・鈴木園巳・渋谷望の三名による共同執筆ペーパー“Linking Struggles Against Expropriation of the Common in Tokyo” (『コモンの収奪への抵抗をつなぐ - 東京の事例から』)を報告した。徳永の担当部分では、都市部におけるジェンダー化されたプレカリアートの現状分析として、水商売で働く女性たちの組合化の事例を取り上げ、女性労働の収奪と組合化を通じた〈共なるもの〉の奪還の力学を検討した。第三の成果は、このカンファレンスの主催者ならびに参加者の中から、*Life in Common* という研究者ネットワークの形成に結びついた点である。*Live in Common* のメンバーは現在ウェブジャーナルの創刊を目標に、オーストラリアと日本研究者の間で連絡を密にとっている。

#### 4. 研究交流・社会連携部門

平成22年4月より平成23年3月の間の活動は次の通りである。

##### 1) 研究交流会

堀芳枝 (IGS研究協力員、恵泉女学園大学准教授) が「フィリピン・ネグロス島におけるフェアトレードとジェンダー」と題した報告を行った (12月15日)

##### 2) IGSセミナー、シンポジウム、講演会、ワークショップ

###### ①平成22年4月14日、4月21日、4月28日

ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」連続講座 (全3回、ジェンダー研究センター提供科目、女性リーダー育成プログラム (実践編)) 履修科目、講師：菅野琴 (IGS客員研究員元駐ネパールユネスコ代表・カトマンズ事務所長、大阪大学大学院客員教授)

###### ②5月12日〈公開シンポジウム〉

『女性と国際協力：国際組織のジェンダー主流化の未来を考える』

ジェンダー研究センター提供科目、ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」、女性リーダー育成プログラム (実践編) 履修科目。

報告者：妹尾靖子 (東京国際連合広報センター所長代行) が「国連とジェンダー主流化：ジェンダー平等をめざす国連の課題と挑戦」、青島あすか (Tokyo English Life Line, TELL) が「緊急人道支援をジェンダーの視点で検証する」、池崎翔子 (大阪大学大学院国際公共政策研究科子比較公共政策専攻博士前期課程) が「ILOのジェンダー主流化政策：



アジア地域事務所での経験」と題した報告を行った。

③ 7月24日〈研究会〉

「科学史とジェンダー」関連文献 読書会・合評会

A.B.ブラックウェル『自然界における両性一雌雄の進化と男女の教育論』（小川真理子・飯島亜衣訳、法政大学出版局、2010年）、川島恵子『マリーキュリーの挑戦—科学・ジェンダー・戦争』（トランスビュー、2010年）を講読し、合評を行った。

④ 7月31日〈研究会〉

「映像表現とジェンダー」研究会

テレビドラマ「Sex and the City」を上映し、吉岡愛子（上智大学・青山学院大学非常勤講師）が「Sex and the Cityとファッション、身体、ポストモダン消費文化」と題する報告を行った。

⑤ 8月27日〈セミナー〉

「アジアにおける科学技術とジェンダー」

Li-Ling Tsai（国立高雄教育大学ジェンダー教育研究所准教授）が「台湾における科学技術とジェンダー」と題し、講演を行った。

⑥ 11月13日〈講演会〉

エヴァ・F. キテイ（ニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校哲学科教授）が「ケアの倫理からグローバルな正義論へ」と題して講演を行った。

⑦ 1月8日

〈公開シンポジウム〉『ケア・エコノミーの現在』

ジュリー・ネルソン（マサチューセッツ大学ボストン校経済学部教授）が基調講演「For Love or Money? Current Issues in the Economics of Care」を行った。

⑧ 1月13日〈特別講義〉

山本由美子（UNDPアジア太平洋地域事務所プログラムスペシャリスト）が「国連開発計画とジェンダー主流化」（Introduction: United Nations Development Programme (UNDP) and Gender Mainstreaming）と題する講義を行った。

⑨ 1月28日〈研究会〉

岡野八代（同志社大学教授）『政治思想とフェミニズム理論の乖離と接近——「ケアの倫理」を中心に』と題し、報告を行った。

⑩ 1月31日〈特別講義〉

杉橋やよい（金沢大学）が「ジェンダー統計について：国内外の動向とジェンダー統計指標」と題し、講義を行った。

### 3) 関連研究会

① 「映像表現とジェンダー」研究会

〈コーディネーター〉館かおる（IGSセンター教授）、小林富久子（IGS研究協力員・早稲田大学教授）

〈事務局〉磯山久美子（IGS研究協力員、立教大学ほか非常勤講師）、臺丸谷美幸（本学博士後期課程）ほか。

② 「資本・移動・セクシュアリティとジェンダー研究会」

〈コーディネーター〉足立真理子（IGSセンター長・教授）、田崎英明（立教大学教授）、伊田久美子（大阪府立大学教授）

③ 「自己／身体とジェンダー研究会」

〈コーディネーター〉根村直美（IGS研究協力員、日本大学教授）

〈事務局〉佐藤（佐久間）りか（IGS研究協力員、健康と病いの語りディベックス・ジャパン）

〈メンバー〉斉藤正美（IGS研究協力員、富山大学ほか非常勤講師）、菅野摂子（IGS研究協力員、立教大学ほか非常勤講師）

④ 「フェミニズムで読む資本論」研究会

〈コーディネーター〉足立真理子（IGSセンター長・教授）、石塚道子（IGSセンター員）

⑤ 「フェミニスト政治経済学研究会〈FPE〉」

〈コーディネーター〉足立真理子（IGSセンター長・教授）、本山央子（アジア女性資料センター）、徳永理彩（IGS研究協力員、都留文科大学ほか非常勤講師）

⑥ 「国際移動とジェンダー（IMAGE）」研究会

〈コーディネーター〉伊藤るり（IGS客員教授・一橋大学教授）、足立真理子（IGSセンター長・教授）、小ヶ谷千穂（横浜国立大学准教授）、定松文（恵泉女学園大学教授）、大橋史恵（日本学術振興会特別研究員）

⑦ 「石塚特別セミナー パワー・空間・主体化」

〈コーディネーター〉申琪榮（IGSセンター教員）

### 4) 国際連携プロジェクト

UNDP（国連開発計画）との連携事業として、「ジェンダーとマクロ経済学」セミナー開催準備に着手した。本事業は、アジアにおけるミッドキャリアの政策従事者、若手研究者、大学院生を対象とした「ジェンダー主流化」政策と開発問題についての集中トレーニングプログラム（2週間）を実施するものであった。平成22年度はフィリピン・ミリアム大学（政変のためタイ・アジア工科大学院大学より変更）にて実施され、ジェンダー研究センターから5名が参加した。1月

に本学にて、Julie Nelson氏（米・マサチューセッツ大学）を招聘し国際シンポジウム「ケア・エコノミーの現在」を開催、ケアを中心にフェミニズム経済学論の最前線を日本のジェンダー研究に紹介した。また本学大学院生を対象とし、山本由美子氏によるUNDPセミナー、杉橋やよい氏（富山大学）によるジェンダー統計に関する講義が開催された。

【担当】 足立真理子（IGSセンター長・教授）、申琪榮（IGSセンター教員）、石川涼子（IGSアソシエイトフェロー）

### 5) 学内科研共同研究プロジェクト

平成22年度共同研究用経費（学内科研）の採択を受け、センター教員、センター員を中心とするメンバーで、研究プロジェクト「アジア・太平洋地域のジェンダーに考慮した人間開発に関する研究——政治・経済・社会領域を中心に——」に取り組んだ。本プロジェクトでは、当該テーマの文献収集に力を入れ、196タイトルを購入した。本プロジェクト研究分担者および関連分野の研究に取り組む他の研究者の研究活動に供するよう、本学附属図書館のOPACに登録し、図書館内のジェンダー研究センター書架に配架した。また1月に本学にて、岡野八代（同志社大学大学院教授）を講師に迎え、研究会「政治思想とフェミニズム理論の乖離と接近」を開催した。岡野氏の博士論文（近刊予定）にもとづく報告では、政治領域から排除されてきた「依存」の問題に注目し、ケアを前提とするあらたな共同性の構築に向けた理論を提示した。

## 5. 教育・研修部門

### ①研究員

熊田 陽子（日本学術振興会特別研究員）  
土野 瑞穂（日本学術振興会特別研究員）  
長田 華子（日本学術振興会特別研究員）  
中村 雪子（日本学術振興会特別研究員）  
深山 直子（日本学術振興会特別研究員）

### ②学部出講・大学院担当

<人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻>

足立真理子

ジェンダー社会経済学（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

開発・ジェンダー論特論（前期 オムニバス）

国際社会ジェンダー論演習（後期集中 館、足立、申ほか

担当）

館 かおる

ジェンダー基礎論（前期 3コース教員+ゲスト講師担当）

ジェンダー基礎論演習（後期）

開発・ジェンダー論特論（前期 オムニバス）

国際社会ジェンダー論（前期 館かおる・菅野琴）

国際社会ジェンダー論演習（後期集中 館、足立、申ほか担当）

申 琪榮

フェミニズム理論の争点（前期）

フェミニズム理論の争点・演習（後期）

開発・ジェンダー論特論（前期・オムニバス）

国際社会ジェンダー論演習（後期集中 館、足立、申ほか担当）

<人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー社会科学専攻>

足立 真理子

ジェンダー政治経済学（通年）

ジェンダー政治経済学演習（通年）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

館 かおる

ジェンダー史論（通年）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

申 琪榮

比較政治論（前期）

比較政治論演習（後期）

<学部>

足立 真理子

リベラルアーツ・ジェンダー2 ケア・エコノミーとジェンダー（後期）

館 かおる

生活科学部 ジェンダー論（前期）

申 琪榮

生活科学部 比較ジェンダー論（後期）

リベラルアーツ・ジェンダー8 政治とジェンダー (後期)  
グローバル文化学環 国際ジェンダー論 (後期)

## 6. 社会貢献

ジェンダー研究センター

・諸外国／国内の女性関係行政部門、民間団体 (NGOの女性問題担当者等)、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等の現状について解説など

足立真理子

〈他大学出講〉

・早稲田大学法学部非常勤講師「歴史・思想研究入門」「ジェンダー論I」(平成22年4月1日～平成23年3月31日)  
・法政大学大学院経済学科非常勤講師 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

〈その他〉

・日本フェミニスト経済学会代表  
・北京大学中外婦女研究中心、韓国徳成女子大学での講演

舘 かおる

〈委員〉

・日本学術会議連携会員  
・湯河原町男女共同参画懇話会会長

〈講演等〉

・神奈川県「市町村連携講座・湯河原町男女共同参画講演会「男も女もつながりあう社会のために—湯河原町の希望のつくり方」(2011年2月4日)  
・横浜市教育委員会講演「男女共同参画とこれからの家庭科・生活科」(2011年3月2日)  
・葛飾区男女平等推進センター講演「女性学講座1」(2011年3月11日)ほか

申 瑛榮

・千葉女性センターまつり市民企画 (ウーマンネットちば・NPO法人ウィメンズ・ウィングちば共催) 講演「女性センターの未来を提案する」(2010年12月11日)

## 7. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

### 1) 主要収集資料

湯浅年子博士の資料整理、湯浅年子生誕百年記念事業への協力【担当】舘かおる (IGSセンター教授)、山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授)、小山直子 (IGS客員研究員)、佐藤梢 (IGSア

カデミック・アシスタント)、城石梨奈 (IGSアカデミック・アシスタント)。

### 2) 資料提供

- NHKエデュケーショナル NHK総合「みんなでニホンGO」へ、明治期の女子学生関係の資料提供
- 株式会社東阪企画 日本テレビ「PON!」へ、黒田チカ関係の資料提供
- 株式会社サクセスブック社「週刊ダイヤモンド別冊 歴史」2号へ、保井コノ関係の資料提供。
- 東北大学大学院理学研究科「東北化学同窓会誌百周年記念号」へ、黒田チカ関係の資料提供。
- 日本古生物学会誌「化石」に、保井コノ関係の資料提供
- パルシステム生活協同組合 月刊情報誌「POCO21」1月号に、湯浅年子関係の資料提供。
- 日本共産党「女性のひろば」編集部「女性のひろば」3月号に、荻野吟子関係の資料提供。
- 香川大学 男女共同参画推進室「四国女性研究者フォーラム」に、湯浅年子、保井コノ関係の資料提供。
- 香川大学生涯学習教育研究センターに、保井コノ関係の資料提供。
- その他、ジェンダー研究センター刊行物等

### 3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

- コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
- ホームページ (和文・英文) の更新実施
- 図書以外に関する情報提供

### 4) 図書・資料寄贈 (敬称略)

掲載は、和書：寄贈者名『書名』(著者名)、洋書：寄贈者名書名 (イタリック) (著者名) の順とした。

<和書> 君嶋里美『生存維持活動の変容とグローバル経済がラオスにもたらした影響：ラオスカムアンケン県2村における比較分析』(君嶋里美)、竹村和子『団塊世代・新論：「関係的自立」をひらく』(天野正子編著)、『男性論：共同研究』(西川祐子、荻野美穂編、トム・ギル [ほか] 著)、『パートナーシップ・生活と制度：結婚、事実婚、同性婚』(杉浦郁子、野宮亜紀、大江千束編著)、『はじめて学ぶ日本女性文学史』(後藤祥子 [ほか] 編著 近現代編)、『美人：あるいは美の症状』(フランセット・パクター著、浜名恵美訳)、『フェ

ミニ」の哲学』(後藤浩子著)、『平安和歌研究』(平野由紀子著)、『ポスト・ユートピアの人類学』(石塚道子、田沼幸子、富山一郎編)、『見るということ』(ジョン・バージャー著、笠原美智子訳)、『揺らぐ性・変わる医療：ケアとセクシュアリティを読み直す』(根村直美編著)、『流行と虚栄の生成：消費文化を映す日本近代文学』(瀬崎圭二著)、『労働のジェンダー化：ゆらぐ労働とアイデンティティ』(姫岡とし子ほか編著)、『現代思想』23巻1号、『マスキュリティ／男性性の歴史』(小玉亮子編)、『I.R.S.：ジャック・ラカン研究』第2号(日本ラカン協会編)、『別冊思想. トレイシーズ = Traces = 迹』、『Bookish』、『到来する沖縄：沖縄表象批判論』(新城郁夫著)、『匂宮・八宮』(上原作和編集)、『妊娠するロボット：1920年代の科学と幻想』(吉田司雄ほか著)、『Hyper voices：ハイパーヴォイス』(ジャストシステム編)、『発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション(切りぬける・交渉・談判・掛け合い)行為の研究』(クレアマリイ著)、『ハビービー：私のパレスチナ』(ネオミ・シーハブ・ナイ著、小泉純一訳)、『表象としての美術、言説としての美術史：室町将軍足利義晴と土佐光茂の絵画』(亀井若菜著)、『ファッションを探して』(宮谷史子著)、『山のある家井戸のある家：東京ソウル往復書簡』(津島佑子、申京淑著、きむふな訳)、『知らないと恥づかしいジェンダー入門』(加藤秀一著)、『世界のジェンダー平等：理論と政策の架橋をめざして』(辻村みよ子、戸澤英典、西谷祐子編)、『戦後日本女装・同性愛研究』(矢島正見編著)、『男女共同参画のために：政策提言』(辻村みよ子、河上正二、水野紀子編)、『中国映画のジェンダー・ポリティクス：ポスト冷戦時代の文化政治』(戴錦華著、宮尾正樹監訳、館かおる編)、『日本シネマの女たち』(今泉容子著)、『非対称の視線』(鈴木杜幾子、千野香織、馬淵明子編著、天野知香ほか著)、『フェミニズムのイズムを超えて：女たちの時代経験』(天野正子著)、『フェミニズムの知識社会学』(L.M.グレノン著、坂本佳鶴恵訳)、『フェミニスト福祉政策原論：社会福祉の新しい研究視角を求めて』(杉本貴代栄編著)、『ボルノグラフィと性暴力：新たな法規制を求めて』(中里見博著)、『山姥たちの物語：女性の原型と語りなおし』(水田宗子、北田幸恵編)、『理論』(加藤秀一、坂本佳鶴恵、瀬地山角編)、『男たちの帝国：ヴィルヘルム2世からナチスへ』(星乃治彦著)、エコトピアと環境正義の文学：日米より展望する広島からユッカマウンテンへ(スコット・スロヴィックほか編著)、いのちの籠(戦争と平和を考える詩の会編)、『情況第三期』情況出版、『日本の美術』(東京国立博物館、京都国

立博物館、奈良国立博物館監修)、『アイデンティティの権力：差別を語る主体は成立するか』(坂本佳鶴恵著)、『アフガニスタン祈りの大地』(千田悦子著)、『岩波新書の歴史：付・総目録1938-2006』(鹿野政直著)、『老いの近代』(天野正子著)、『往復書簡宮本百合子と湯浅芳子』(宮本百合子、湯浅芳子著、黒澤亜里子編著)、『「男」と「女」のディスクール：シェイクスピアからドライデンまで』(植月恵一郎編)、『階級としての動物：ヴィクトリア時代の英国人と動物たち』(ハリエット・リトヴォ著、三好みゆき訳)、『革命と性文化』(若尾祐司・栖原彌生・垂水節子編)、『家族、積みすぎた方舟：ポスト平等主義のフェミニズム法理論』(マーサ・A. ファインマン著；速水葉子、穂田信子訳)、『身体とアイデンティティ・トラブル：ジェンダー/セックスの二元論を超えて』(金井淑子編著)、『身体とアイデンティティ・トラブル：ジェンダー/セックスの二元論を超えて』(金井淑子編著)、『教育/家族をジェンダーで語れば』(木村涼子、小玉亮子著)、『魅惑のプス』(伏見憲明編)、『夢見る老後』(伏見憲明編)、『経済学と知：ポスト/モダン・合理性・フェミニズム・贈与』(S・カレンバーク、J・アマリーリオ、D・ルッチオ編著)、『ケガレの文化史：物語・ジェンダー・儀礼』(服藤早苗ほか編)、『結婚の条件』(小倉千加子著)、『現代社会の社会学』(井上俊ほか編集)、『現代日本の社会意識：家族・子ども・ジェンダー』(渡辺秀樹編)、『交差する視線』(鈴木杜幾子ほか編著、稲本万里子ほか著)、『ジェンダー家族を超えて：近現代の生/性の政治とフェミニズム』(牟田和恵著)、『ジェンダーと差別』(安丸良夫ほか執筆)、『ジェンダーと人権：歴史と理論から学ぶ』(辻村みよ子著)、『じゃじゃ馬たちの文化史：シェイクスピア上演と女の表象』(小林かおり著)、『「少女」像の誕生：近代日本における「少女」規範の形成』(渡部周子著)、『女性と高等教育：機会拡張と社会的相克』(香川せつ子、河村貞枝編)、『図説着物柄にみる戦争』(乾淑子編著)、『生活の協同：排除を超えてともに生きる社会へ』(大沢真理編著)、『「青鞥」女性解放論集』(堀場清子編)、『装飾/芸術：19-20世紀フランスにおける「芸術」の位相』(天野知香著)、『脱アイデンティティ』(上野千鶴子編)、『「赤毛のアン」の秘密』(小倉千加子著)、『異郷の身体：テレサ・ハッキオン・チャをめぐる』(池内靖子、西成彦編)、『喪われた悲哀：ファシズムの精神構造』(A. & M. ミッチャーリッヒ著、林峻一郎、馬場謙一訳)、『円地文子：ジェンダーで読む作家の生と作品』(小林富久子著)、『円地文子』(円地文子著、小林富久子編)、『老いる準備：介護することされること』(上野千鶴子著)、

『尾崎翠論：尾崎翠の戦略としての「妹」について』（塚本靖代著）、『「お茶」はなぜ女のものになったか：茶道から見る戦後の家族』（加藤恵津子 著）、『女が映画を作るとき』（浜野佐知著）、『「女ことば」はつくられる』（中村桃子著）、『「女」という制度：トマス・ハーディの小説と女たち』（土屋倭子著）、『女の遺言：わたしの人生を書く』（麻鳥澄江、鈴木ふみ著）、『女ひとり漂泊のインド：恵みの岸辺・ヴァーラーナシー』（渡辺みえこ著）、『加害者は変わるか?：DVと虐待をみつめながら』（信田さよ子著）、『神の息に吹かれる羽根』（シークリット・ヌネス著、杉浦悦子訳）、『「からだ」を生きる：身体・感覚・動きをひらく5つの提案』（久保健編著）、『記憶の網目をたぐる：アートとジェンダーをめぐる対話』（香川檀、小勝禮子著）、『現代日本の生活保障システム：座標とゆくえ』（大沢真理著）、『現地と世界をつなぐ私たちの仕事：次世代への国際協力レポート』（加納弘勝編）、『更年期の真実』（ジャーメイン・グリア著、寺澤恵美子、山本博子訳）、『ことばの力平和の力：近代日本文学と日本国憲法』（小森陽一著）、『ザ・フェミニズム』（上野千鶴子、小倉千加子著）、『ザ・ラスト・ワルツ：「姫」という酒場』（山口洋子著）、『フェミニズムはみんなのもの：情熱の政治学』（バル・フックス著、堀田碧訳）、『「ジェンダー」の危機を超える!：徹底討論!バックラッシュ』（若桑みどりほか編著）、『シモーヌ・ヴェイユ』（富原眞弓著）、『写真、時代に抗するもの』（笠原美智子著）、『性的マイノリティの基礎知識』（ヴァネッサ・ベアード著、町口哲生訳）、『性的マイノリティの基礎知識』（ヴァネッサ・ベアード著、町口哲生訳）、『沈黙で建てた家：朝鮮戦争と冷戦の記憶』（曹恩著、中村福治、秦花秀、村上尚子訳）、『津田梅子の社会史』（高橋裕子著）、『徹底批判G8サミット：その歴史と現在』（ATTACフランス編、コリン・コバヤシ、杉村昌昭訳）、『ドイツ女性の歩み』（河合節子、野口薫、山下公子編）、『映画と身体/性』（斉藤綾子編）、『おこげノスメ：カルト的男性論』（小谷真理著）、『私たちの知らない女：フェミニストのためのサイエンス・フィクション』（マーリーン・S・バー著；小谷真理、鈴木淑美、榎木玲子訳）、『「彼女たち」の連合赤軍：サブカルチャーと戦後民主主義』（大塚英志著）、『女の社会史：17-20世紀：「家」とジェンダーを考える』（大口勇次郎編）、『開発とジェンダー：エンパワーメントの国際協力』（田中由美子、大沢真理、伊藤るり編著）、『家族：ジェンダーと自由と法』（水野紀子編）、『家族へのまなざし』（慶應義塾大学経済学部編）、『家庭生活の経済：生活者の視点から経済を考える』（御船美智子著）、『近代日本の父性論

とジェンダー・ポリティクス』（海妻径子著）、『グローバル化とジェンダー表象』（ヴェラ・マッキー著、館かおる、森本恭代責任編集）、『国際法・国際関係とジェンダー』（植木俊哉、土佐弘之編）、『雇用・社会保障とジェンダー』（嵩さやか、田中重人編）、『ジェンダーで読む健康/セクシュアリティ』（根村直美編著）、『ジェンダーと交差する健康/身体』（根村直美編著）、『ジェンダーと法 ジェンダーの基礎理論と法』（辻村みよ子編）、『ジェンダーは超えられるか：新しい文学批評に向けて』（武田悠一編）、『獅子座の女チャンネル』（ポール・モラン著、秦早穂子訳）、『植物と帝国：抹殺された中絶薬とジェンダー』（ロンダ・シービング著、小川眞里子、弓削尚子訳）、『戦後責任を問い直す：特集』（「女性・戦争・人権」学会学会誌編集委員会編）、『女性のいる近世』（大口勇次郎著）、『女性リーダーのキャリア形成』（篠塚英子編著）、『女性を弄ぶ博物学：リンネはなぜ乳房にこだわったのか?』（ロンダ・シービング著、小川眞里子、財部香枝訳）、『身体、ジェンダー、エスニシティ：21世紀転換期アメリカ文学における主体』（鴨川卓博、伊藤貞基編著）、『資源としての身体：Economy』（荻野美穂編）、『性・身体・母性』（加藤秀一ほか編）、『生活者の経済』（御船美智子著）、『政治参画とジェンダー』（川人貞史、山元一編）、『制度と達成』（加藤秀一、坂本佳鶴恵、瀬地山角編）、『性を買う男』（谷口和憲著）、国際文化研究センター『艶道日夜女宝記[月岡雪鼎画]』（早川聞多編集・翻刻；アンドリュー・ガーストル解説・英訳）、菅野琴『国際連合の基礎知識』（国際連合広報局著、八森充翻訳）、東海ジェンダー研究所『越境するジェンダー研究』（東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編、エステル・B・フリードマンほか著）、一橋大学大学院社会学科研究科『ジェンダーと社会：男性史・軍隊・セクシュアリティ』（木本喜美子、貴堂嘉之編；赤石憲昭ほか著）、赤坂俊一・柳谷慶子『生活と福祉』（赤坂俊一、柳谷慶子編著）、国際日本文化研究センター『いま構築されるアジアのジェンダー：人間再生産のグローバルな再編成』（落合恵美子編集）、ジェンダー研究センター『教育行政における法的思考（リーガルマインド）と教育的思考（エデュケーショナルマインド）』（森隆夫著 上）、磯山久美子『断髪する女たち：1920年代のスペイン社会とモダンガール』（磯山久美子著）、近代女性文化史研究会『占領下女性と雑誌』（近代女性文化史研究会著）、長島二三子『金木犀のかおり：短歌・エッセイ集』（長島二三子編）、木村涼子『「主婦」の誕生：婦人雑誌と女性たちの近代』（木村涼子著）、中島邦『上代タノ：女子高等教育平和運動のパイオニア』（島田法子、中島邦、杉森長子

著)、竹村和子『恋する物語のホモセクシュアリティ：宮廷社会と権力』(木村朗子著)、『源氏物語の性と生誕：王朝文化史論』(小嶋菜温子著)、『源氏物語と江戸文化：可視化される雅俗』(小嶋菜温子, 小峯和明, 渡辺憲司編)、『家計研究へのアプローチ：家計調査の理論と方法』(御船美智子, 家計経済研究所編)、『女を描く：ヨーロッパ中世末期からルネサンスの美術に見る女のイメージ』(クリスタ・グレシンジャー著；元木幸一, 青野純子訳)、『女優の誕生と終焉：パフォーマンスとジェンダー』(池内靖子著)、館かおる『スタイル』、吉原公美『アルマ・マラー：ウィーン式恋愛術』(フランソワーズ・ジルー著；山口昌子訳)、『イヴの七人の娘たち』(ブライアン・サイクス著；大野晶子訳)、『ラストエンペラー夫人婉容』(池内昭一, 孫憲治著)、『わが半生：「満州国」皇帝の自伝』(愛新覚羅溥儀著；小野忍ほか訳上)、『わが半生：「満州国」皇帝の自伝』(愛新覚羅溥儀著；小野忍[ほか]訳下)、『乳房論：乳房をめぐる欲望の社会史』(マリリン・ヤーロム[著]；平石律子訳)、『我が名はエリザベス：満洲国皇帝の妻の生涯』(入江曜子著)、『壊れる男たち：セクハラはなぜ繰り返されるのか』(金子雅臣著)、『愛の解剖学』(カール・グラマー著、今泉みね子訳)、岩波書店『グローバリゼーション』(天野正子ほか編集委員、斎藤美奈子編集協力、伊藤るり解説)、『女が国家を裏切るとき：女学生、一葉、吉屋信子』(菅聡子著)、フェリス女学院資料室『関東大震災女学生の記録：大震災災難実記』(フェリス女学院150年史編纂委員会編)、館かおる『中国の女たち』(ジュリア・クリステヴァ著、丸山静, 原田邦夫, 山根重男訳)、『資生堂宣伝史』(資生堂宣伝部編 セルジュ・ルタンズ篇)、『資生堂宣伝史』(資生堂宣伝部編 総合篇(1979-1991))、『資生堂宣伝史』(資生堂宣伝部編 TV・CM篇 [1])、『資生堂宣伝史』(資生堂宣伝部編 TV・CM篇 [2])、『従軍看護婦：痛哭のドキュメント白衣の天使』(千田夏光著)、『チャイナドレスをまとう女性たち：旗袍(チーパオ)にみる中国の近・現代』(謝黎著)、『映画のなかの上海：表象としての都市・女性・プロパガンダ』(劉文兵著)、『性欲の科学』(富士川游著)、『近代文化と性生活』(杉田直樹著)、『性と生命』(石川千代松著)、『人類性文化史』(西村真次著)、『自然界の両性生活』(横山桐郎著)、『世界艶笑芸術』(丸木砂土著)、『世界性的風俗史』(矢口達著)、『変態性欲考』(高田義一郎著)、『産児調節の理論と実際』(馬島侷著)、『恋愛の史的考察』(石原純著)、『吸血妖魅考』(日夏耿之介著)、『人性医学』(正木不如丘著)、『図説大連都市物語』(西澤泰彦著)、『中国女性の一〇〇年：史料にみる歩み』(中国

女性史研究会編)、『中国の婦人解放運動：第四回中国婦女全国代表大会記録』(日中友好協会婦人対策部)、『中国女性：家・仕事・性』(秋山洋子編訳)、『天の半分：中国の女たち』(クロード・ブロイエル著、天木志保美, 武井麻子訳)、『纏足物語』(岡本隆三著)、『フェミニズムは中国をどう見るか』(J・ステイシー著；秋山洋子訳)、『女の生き方：中国にくらして』(北恭子著)、『「性」を語り始めた中国の女たち：重婚・売買婚・売買春・中絶・自立』(戴晴ほか著；林郁編訳)、『漢口慰安所』(長沢健一著)、『女の民族誌』(綾部恒雄編 1)、『中国雲南摩梭族の母系社会』(遠藤織枝著)、『美と知のミーム』(資生堂)、『Silenced by history: Tomiyama Taeko's work: 富山妙子時代を刻む』(富山妙子[画]、[アジアへの視座と表現] 実行委員会編集)、『グローバリゼーション：特集 継続する植民地主義：ジェンダー/民族/人種/階級』(岩崎稔ほか 編著)、『マラリアと帝国：植民地医学と東アジアの広域秩序』(飯島渉著)、『上海ネットワークと近代東アジア』(古田和子著)、『明治キリスト教会形成の社会史』(森岡清美著)、『マリールイズ：宮廷服装顧問』(早瀬利之著)、『御一新とジェンダー：荻生徂徠から教育勅語まで』(関口すみ子著)、『従軍慰安婦：元兵士たちの証言』(西野留美子著)、『現代世相漫画』(代田収一編纂)、『漫畫明治大正史』(代田収一編纂)、『滑稽文学漫画』(代田収一編纂)、『女の世界』(田口鏡次郎編纂)、『近代日本漫画集』(田口鏡次郎編纂)、『絹ばあちゃんと90年の旅：幻の旧満州に生きて』(落合由利子文・写真)、佐藤梢『エクソフォニー：母語の外へ出る旅』(多和田葉子著)、北大路書房『認知や行動に性差はあるのか：科学的研究を批判的に読み解く』(ポーラ・J・カプラン, ジェレミー・B・カプラン著；森永康子訳)、児玉聡『功利と直観：英米倫理思想史入門』(児玉聡著)、吉原公美『アンチ・『クロワッサン症候群』：結婚しない女たちの素顔』(わいふ編集部編)、『皇弟溥儀の昭和史』(船木繁著)、加藤シヅエ蔵書 加藤タキ『日本女性社会史』(高群逸枝著)、『福澤論吉「女子教育論」』(昆野和七編)、『石塚の譜』(神近市子著)、『婦人と国際理解』(ハル・ライシャワー、坂西志保著)、『名作女性訓：悲劇の女性』(河上徹太郎著)、『女性の幸福：文化・社会についての対話集』(宮本百合子著)、『婦人参政権の理論と実際』(ジョゼフ・バルテルミイ著、星野辰雄訳著)、『解説社会主義と資本主義：有識婦人のために』(バアナアド・ショウ著；加藤朝鳥譯上)、『世相を追って』、『新憲法講話』(憲法普及會編纂)、『日本の家族計画史：明治/大正/昭和』(久保秀史著)、『夜明け前の若い機関車：モノローグ』(國井長次郎著)、『ロマンと現実の間：

予防医学・家族計画・国際協力の30年』(国井長次郎著)、『生育の価値：加藤夫人自述』((日)加藤静枝著；吴刚译)、戒能民江『人身売買：海外出稼ぎ女』(森克己著)、『訴える女たち：レイプ裁判の記録』(ショワジュール編；中山真彦訳)、『パリティの論理：男女共同参画の技法』(糠塚康江著)、『天皇制とジェンダー』(加納実紀代著)、『戦後史とジェンダー』(加納実紀代著)、『虐待を経験した家族が癒される家シダーハウス：児童虐待治療プログラム』(ボビー・ケンディック、クララ・ローリー著；内田江里、谷口美喜訳)、『女性と人間開発：潜在能力アプローチ』(マーサ・C. ヌスバウム 著；池本幸生、田口さつき、坪井ひろみ訳)、『私はストーカーとこうして闘った!!：女性11人の記録 賢い対処法つき』(ストーカー対策研究会編)、『現代の慰安婦たち：軍隊慰安婦からジャバゆきさんまで』(白杵敬子著)、『訴状：「在日元従軍慰安婦」謝罪・補償請求事件』、『フィリピン「従軍慰安婦」補償請求裁判訴状：1993年4月2日提訴』、『「平和国家」日本の再検討』(古関彰一著)、『新潟少女監禁事件：空白の九年二ヵ月』(毎日新聞新潟支局編)、『安全神話崩壊のパラドックス：治安の法社会学』(河合幹雄著)、『青少年に有害!：子どもの「性」に怯える社会』(ジュディス・レヴァイン著；藤田真利子訳)、『インターネット時代のポルノグラフィの実態および法規制と「表現の自由」の比較法研究』(研究代表者 中里見博)、『「援助交際」に対する成人男性の意識と背景要因』(福富護研究代表)、『家庭内における女性の尊厳侵害に関する実情調査：報告書』(家庭問題情報センター編)、『航路二十年：婦人民主クラブの記録』(婦人民主クラブ二十年史編纂委員会編)、加藤シヅエ蔵書 加藤タキ『女性史研究』(歴史教育研究会編)、『日本の民主化と女性』(山川菊栄著)、『高橋展子さんを想う：追悼集』(高橋展子追悼集刊行世話人会編)、『ジュネーブ日記：レマン湖の見えるオフィスで』(高橋展子著)、デンマーク日記：女性大使の覚え書』(高橋展子著)、『売春：この実態をどうしたらいいか』(神崎清著)。

〈洋書〉鈴木晶 *Good girls make good wives : guidance for girls in Victorian fiction* (Judith Rowbotham)、*Growing up good : policing the behaviour of girls in Europe* (edited by Maureen Cain)、*The streets : a factual portrait of six prostitutes as told in their own words* (Michael Zausner)、*The politics of homosexuality* (Toby Marotta)、*The unmentionable vice : homosexuality in the later medieval period* (Michael Goodich)、*The homosexuals : as seen by themselves and thirty authorities* (edited by A.M. Krich)、

*The homosexualization of America* (Dennis Altman)、*The gay past : a collection of historical essays* (edited by Salvatore J. Licata, Robert P. Petersen)、*The Christopher Street reader* (edited by Michael Denny, Charles Ortleb, Thomas Steele)、*Women on top* (Nancy Friday)、*Witches, midwives and nurses : a history of women healers* (by Barbara Ehrenreich and Deirdre English)、*Hero, captain, and stranger : male friendship, social critique, and literary form in the sea novels of Herman Melville* (by Robert K. Martin)、*Homosexualities and French literature : cultural contexts, critical texts* (edited with an introduction by George Stambolian and Elaine Marks ; preface by Richard Howard)、*Homosexuality and literature 1890-1930* (by Jeffrey Meyers)、*Homosexuality/heterosexuality : concepts of sexual orientation* (edited by David P. McWhirter, Stephanie A. Sanders, June Machover Reinisch)、*Homosexuals in history : a study of ambivalence in society, literature and the arts* (A. L. Rowse)、*Language, gender, and sex in comparative perspective* (edited by Susan U. Philips, Susan Steele, and Christine Tanz)、*Loving with a vengeance : mass-produced fantasies for women* (Tania Modleski)、*Molecular revolution : psychiatry and politics* (Félix Guattari ; translated by Rosemary Sheed ; and introduced by David Cooper)、*Partage des femmes* (Eugénie Lemoine-Luccioni)、*Policing desire : pornography, AIDS, and the media* (Simon Watney)、*Pre-Raphaelite sisterhood* (Jan Marsh)、*Pornography, feminism, and the individual* (Alison Assiter)、*Rape, the politics of consciousness* (Susan Griffin)、*The sexual perspective : homosexuality and art in the last 100 years in the West* (Emmanuel Cooper)、*The trials of Oscar Wilde* ([by] H. Montgomery Hyde)、*The woman's dictionary of symbols and sacred objects* (Barbara G. Walker ; illustrated by the author)、*Violence and terror in the mass media : an annotated bibliography* (compiled by Nancy Signorielli and George Gerbner)、*Women and prostitution : a social history* (Vern Bullough and Bonnie Bullough)、*Women and the AIDS crisis* (Diane Richardson)、*Women's rites* (Jeanne de Berg ; translated from the French by Anselm Hollo)、*Writing and sexual difference* (edited by Elizabeth Abel)、*Secret scars : a guide for survivors of child sexual abuse* (Cynthia Crosson Tower)、*Selling mothers' milk : the wet-*

*nursing business in France, 1715-1914* (George D. Sussman)、*Sex and sensibility : ideal and erotic love from Milton to Mozart* (Jean H. Hagstrum)、*Sex and the American teenager* (Robert Coles, Geoffrey Stokes)、*Sexual fiction* (Maurice Charney)、*Sexuality and the body in Russian culture* (edited by Jane T. Costlow, Stephanie Sandler, Judith Vowles)、*States of desire : travels in gay America* (Edmund White)、*Surviving sexual violence* (Liz Kelly)、*Sexual homicide : patterns and motives* (Robert K. Ressler, Ann W. Burgess, John E. Douglas with chapters by James L. Luke ... [et al.])、*The invisible children : child prostitution in America, West Germany, and Great Britain* (Gitta Sereny)、*Take back the night : women on pornography* (edited by Laura Lederer)、*Sodomy and the pirate tradition : English sea rovers in the seventeenth-century Caribbean* (B.R. Burg)、*Sometimes god has a kid's face : letters from Covenant House* (Bruce Ritter)、*Sexuality and medicine in the Middle Ages* (Danielle Jacquart and Claude Thomasset ; translated by Matthew Adamson)、*XXX : a woman's right to pornography* (Wendy McElroy)、*Abandoned women and poetic tradition* (Lawrence Lipking)、*AIDS : cultural analysis, cultural activism* (edited by Douglas Crimp ; contributions by Leo Bersani ... [et al.])、*AIDS and the doctors of death : an inquiry into the origin of the AIDS epidemic* (Alan Cantwell, Jr. ; foreword by Jon Rappoport)、*Another mother tongue : gay words, gay worlds* (Judy Grahn)、*Between men : English literature and male homosocial desire* (Eve Kosofsky Sedgwick)、*Byron and Greek love : homophobia in 19th-century England* (Louis Crompton)、*Child abuse* (Ruth S. Kempe and C. Henry Kempe)、*Child sexual abuse : an interdisciplinary manual for diagnosis, case management, and treatment* (Kathleen Coulborn Faller)、*Child sexual abuse* (Jean La Fontaine)、*Cinema, censorship, and sexuality, 1909-1925* (Annette Kuhn)、*Eroticism and the body politic* (edited by Lynn Hunt)、*Feminism and the contradictions of oppression* (Caroline Ramazanoglu)、*Feminist perspectives : philosophical essays on method and morals* (edited by Lorraine Code, Sheila Mullett, and Christine Overall)、*Femme et mythe* (Georges Devereux)、*For adult users only : the dilemma of violent pornography* (edited by Susan Gubar and Joan Hoff)、*The*

*Americanization of sex* (Edwin M. Schur)、*The beauty myth : how images of beauty are used against women* (Naomi Wolf)、*The best kept secret : sexual abuse of children* (Florence Rush)、*The body project : an intimate history of American girls* (Joan Jacobs Blumberg)、*The celluloid closet : homosexuality in the movies* (Vito Russo)、*The Difference within : feminism and critical theory* (edited by Elizabeth Meese and Alice Parke)、*The end of obscenity : the trials of Lady Chatterley, Tropic of cancer, and Fanny Hill* (by Charles Rembar)、*The female body in western culture : contemporary perspectives* (edited by Susan Rubin Suleiman)、*The Impact of feminist research in the academy* (edited by Christie Farnham for the Women's Studies Program of Indiana University)、*The invention of pornography : obscenity and the origins of modernity, 1500-1800* (edited by Lynn Hunt)、*The men with the pink triangle* (Heinz Heger ; translated by David Fernbach)、*The new politics of pornography* (Donald Alexander Downs)、*The pink triangle : the Nazi war against homosexuals* (Richard Plant)、*The Poetics of gender* (Nancy K. Miller, editor)、*The pornography of representation* (Susanne Kappeler)、*The Sadeian woman : and the ideology of pornography* (Angela Carter)、*The secret museum : the history of pornography in literature* (Walter Kendrick)、*Sex in the forbidden zone : when men in power--therapists, doctors, clergy, teachers, and others--betray women's trust* (Peter Rutter)、*Sex and germs : the politics of AIDS* (Cindy Patton)、*Pornography and silence : culture's revenge against nature* (Susan Griffin)、*Porn row* (Jack McIver Weatherford)、*Porn gold : inside the pornography business* (David Hebditch and Nick Anning)、*Policing desire : pornography, AIDS, and the media* (by Simon Watney)、*Philosophy and homosexuality* (edited by Noretta Koertge)、*Men in love* (Nancy Friday)、*Lorca : the gay imagination* (Paul Binding)、*In search of God in the sexual underworld : a mystical journey* (Edwin Clark Johnson)、*Homosexuality, power & politics* (edited by Gay Left Collective)、*Gays under the Cuban Revolution* (Allen Young)、*Gay spirit : myth and meaning* (Mark Thompson)、*Gay resistance : homosexuals in the anti-Nazi underground* (by Ian Young)、*Where I stopped : remembering a adolescent rape* (Martha Ramsey)、*Tricks*



(Renaud Camus ; preface by Roland Barthes ; translated & with a note by Richard Howard)、*The Virago book of women travellers* (edited and with an introduction by Mary Morris in collaboration with Larry O'Connor)、*Freedom and taboo : pornography and the politics of a self divided* (Richard S. Randall *From front porch to back seat : courtship in twentieth-century America* (Beth L. Bailey)、*Gay plays* (edited and introduced by Michael Wilcox v. 2)、*Gay plays* (edited and introduced by Michael Wilcox v. 2)、*Fire with fire : the new female power and how it will change the 21st century* (Naomi Wolf)、*Essays on gay literature* (edited by Stuart Kellogg)、*Covenant House : lifeline to the street* (Bruce Ritter)、*Christianity, social tolerance, and homosexuality : gay people in Western Europe from the beginning of the Christian era to the fourteenth century* (John Boswell)、*Calamus : male homosexuality in twentieth-century literature : an international anthology* (edited by David Galloway and Christian Sabisch)、*By silence betrayed : sexual abuse of children in America* (John Crewdson)、*Body invaders : panic sex in America* (edited and introduced by Arthur and Marilouise Kroker)、*Bitch : in praise of difficult women* (Elizabeth Wurtzel)、*Beyond acceptance : parents of lesbians and gays talk about their experiences* (Carolyn Welch Griffin, Marian J. Wirth, Arthur G. Wirth)、*Aphrodisiac : fiction from Christopher street*、*Corydon* (André Gide ; translated, and with a preface by Richard Howard、戒能民江 *The future of men* (Marian Salzman, Ira Matathia and Ann O'Reilly)、*Visible identities : race, gender, and the self* (Linda Martín Alcoff)、*Family violence : legal, medical, and social perspectives* (Harvey Wallace)、*Family law, gender and the state : text, cases and materials* (Alison Diduck, Felicity Kaganas)、*The other women's movement : workplace justice and social rights in modern America* (Dorothy Sue Cobble)、*The other women's movement : workplace justice and social rights in modern America* (Dorothy Sue Cobble)、*Sharing power : women, parliament, democracy* (edited by Yvonne Galligan, Manon Tremblay)、加藤シヅエ蔵書 加藤タキ *The rise of American civilization* (Charles A. Beard & Mary R. Beard ; decorations by Wilfred Jones v. 1)、*The rise of American civilization* (by Charles A. Beard & Mary R. Beard ;

decorations by Wilfred Jones v. 2)、*America in midpassage* (by Charles A. Beard & Mary R. Beard)、*American government and politics* (by Charles A. Beard)、*I choose* (by Sarah Lawrence Slattery)、*The rights of infants : early psychological needs and their satisfaction* (Margaret A. Ribble)、*Memory book of Agnes True Houston*、*A fight for women's happiness : pioneering the family planning movement in Japan* (by Shidzue Kato)、*The pocket book of baby and child care* (by Benjamin Spock ; illustrations by Dorothea Fox)、*Labour troubles and birth control* (by Bessie Ingman Drysdale)、*The world's laws and practices on population and sexuality education* (E.H. Kellogg, D.K. Kline, and Jan Stepan)、*Japan's experience in family planning : past and present* (editor-in-chief, Monoru Muramatsu)、*Lady Chatterley's lover* (D.H. Lawrence)、*The father and his boy : the place of sex in manhood making* (T.W. Galloway)、*Love and marriage : normal sex relations* (by Thomas Walton Galloway)、*Marriage and sexual harmony* (by Oliver M. Butterfield ; foreword by Endre K. Brunner)、*Karezza, ethics of marriage* (by Alice B. Stockham)、*Sex and society in Sweden* (Birgitta Linner ; in collaboration with Richard J. Litell ; with a preface by Lester A. Kirkendall ; photographs by Lennart Nilsson)、*The sum of feminine achievement : a critical and analytical study of woman's contribution to the intellectual progress of the world* (by W. A. Newman Dorland)、*Three rousing cheers* (Elizabeth Jordan)、*The land is shrinking : population planning in Asia* (Gayl D. Ness and Hirofumi Ando)、*The story of a pioneer* (Anna Howard Shaw ; with the collaboration of Elizabeth Jordan)、*Our world : a magazine of understanding: Basic readings on population and family planning in Japan* (edited by Chojiro Kunii [and] Tameyoshi Katagiri)、*Mary Beard as force in history* (Barbara K. Turoff)、*Daughters of changing Japan* (Earl Herbert Cressy)、*Chinese women : yesterday & today* (by Florence Ayscough)、*Mobilizing woman-power* (by Harriot Stanton Blatch)、*Woman as force in history : a study in traditions and realities* (by Mary R. Beard)、*The force of women in Japanese history* (Mary R. Beard)、東北大学グローバルCOEプログラム *Gender equality in multicultural societies : gender, diversity, and conviviality in the age of globalization* (edited by Tsujimura Miyoko & Osawa

Mari)、*Rebecca Orlean The return of the feminine : honoring the cycles of nature* (Rebecca Orlean)、竹村和子 *Gendering the knowledge economy : comparative perspectives* (edited by Sylvia Walby et al.)、吉原公美 *The autonomy myth : a theory of dependency* (Martha Albertson Fineman)、舘かおる *PRED Bank : populations, resources, environment and development databank*、竹村和子 *International perspectives on gender equality & social diversity* (edited by Miyoko Tsujimura)、*Gender & law in Japan* (eds., Miyoko Tsujimura & Emi Yano)、*Specters of the West and the politics of translation* (Naoki Sakai and Yukiko Hanawa, editors).

#### 5) 来館・閲覧者

学生・研究生・大学院生 4名

大学院以上の研究者 7名

その他 2名